

学習指導要領一部改訂の批判をすすめ、 主権者を育てる教育課程づくりをすすめよう

二〇〇四年二月一六日
日本高等学校教職員組合中央執行委員会

一、文部科学省は昨年十二月二六日、官報告示で学習指導要領の部分改訂をおこないました。現行学習指導要領が今年度から導入されたばかりの高校現場ではとまどいととも、文科省の文字どおり朝令暮改の教育課程行政に、厳しい批判がだされています。

日高教は、ここに学習指導要領の部分改訂の問題点を明らかにし、改めて新学習指導要領の徹底した批判的分析・検討と、来年度に向けた各学校での教育課程編成論議を旺盛にすすめることをよびかけるものです。

二、今回の一部改訂は、とりわけすべての子どもに基礎学力と進路選択の力を育ててほしいという願いから生まれた学習指導要領にたいする国民的批判の広がりの中で、それに応えるそぶりを見せながら、その実、財界の求める「人づくり」の曖昧さへの財界のいらだちに応えた内容になっています。それは、改訂の「趣旨」を「学習指導要領のねらいの一層の充実を図る」としていることからもしっかりしています。「一層の充実を図る」として付加されたことは、小学校から「学習指導要領に示していない内容を加えて指導でき」「内容の範囲や程度をこえて指導することができ」とし、格差のある学級編成につながる「習熟度別、進路別学習」を位置づけたことです。つまり、学習指導要領で示した内容や範囲は「平均的」な子どもを対象にするもので、特定の子どもにはもつと高度な内容を教えることのできるように改めているのです。これは義務教育段階から教育課程と学級編成上の格差をもちこみ、通学区の撤廃と学校の「特色競争」を通じて小学校低学年から「多様化」し、財界の「人づくり」に合わせた学校教育体系の複線化をさらにすすめようとするものです。

三、高校の学習指導要領では、保健体育を除き一学年次の必修教科・科目のすべてで選択制が導入され、しかも、必修修科目の多くを含め小単位となり、すべての高校生に共通の学習の機会を保障し、基礎的な学力の形成とともに進路選択の力を育てることを困難にしています。このような中で、各学校では総合的な学習の時間を、各教科学習とも結び付けた創造的な総合学習とする実践がすすめられてきています。このような状況の下で、一部改訂では総合的な学習の時間について、「よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」と「自分の生き方を考えることができるようにする」という従来の内容に加え、「各教科等で身につけた知識や技術等を相互に関連付け、それらを学習や生活において生かし、総合的に働くことができるようにする」としています。このことは一定評価できるものの、総合的な学習の時間を「大学受験指導」にも活用できるようにし、学校間の学習内容の格差づくりをすすめる仕掛けともなっています。年間授業時数の「標準を上回る適切な授業時間の確保」も同じねらいをもったものです。このような「ゆとりのなかで生きる力」を育てることを強調した学習指導要領の一部手直しではなく、学習の系統性を曖昧にした教育内容の「三割削減」をはじめ学習指導要領の抜本的見直し、いよいよ緊急の課題となっています。

四、一九九八年一二月告示の学習指導要領について、私たちは、能力主義と競争原理にもとづく教育内容の差別的「多様化、弾力化」と国家主義的な教育統制を教育課程の面からいっそう強化するものとして厳しく批判してきました。しかし、その中でも、各学校では子どもたちの発達課題に応える教育を保障するために、自主的・民主的な教育課程編成の努力がおこなわれてきました。

日高教・全国私教連の二〇〇三年度高校教育シンポジウムでは、全国の実践を持ち寄り、①生徒たちがすでに育てているものを確認することからはじめること。②生徒自身の声と発達要求から読みとること。③基本的人権の擁護についての社会的・法律的規制が失われてきている社会にあって、人間のいのちや日常生活を守るための知恵とは何かを考えること。④高校を卒業し、専門学校・大学を卒業しても就職が困難な上に、働きつづけることが容易でない現実と向き合い、「国家及び社会の形成者」として、この社会で生活し、働き、その現実を変革する青年に求められていることの四点から、「いま高校生にどのような力を育てるのか」というテーマを深めました。

こうした議論を出発点にし、全国の教育実践・教育研究の到達点に学び、今回の学習指導要領の一部改訂のねらいを批判・検討するとともに、新年度に向け、以下のとりくみをすすめます。

教職員相互、生徒、父母の声を集め、授業のあり方を考え、授業改革の議論を深めましょう。

生徒、父母、住民の声を生かした教育課程づくりにとりくみましょう。

各学校の教育目標を、目の前にいる子ども・青年の生活・学習・進路や発達課題にそったものにし、「教育課程づくりは、学校づくり」の観点から議論をすすみましょう。

地域の小中学校と教育課程問題での交流をはじめましょう。

以上